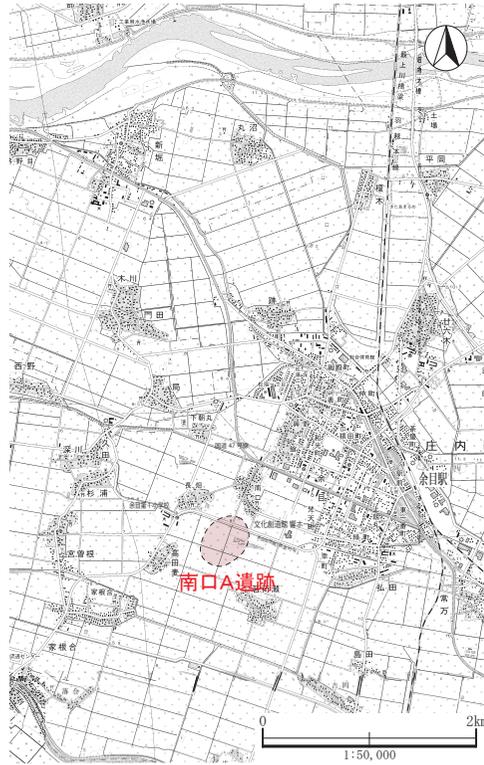


調査要項

遺跡名	南口 A 遺跡 (みなみぐちえーいせき)
所在地	山形県東田川郡庄内町余目南口
登録年度	昭和 61 年
調査委託者	国土交通省酒田河川国道事務所
調査原因	余目酒田道路
現地調査	平成 21 年 5 月 13 日～平成 21 年 9 月 16 日
調査面積	6,500 m ²
遺跡種別	集落跡
時代	平安時代・近世・近代
遺構	竪穴状遺構・水路跡・土坑・柱穴跡
遺物	須恵器・土師器・陶器・磁器・木製品
調査担当者	調査課長 阿部 明彦 課長 補佐 伊藤 邦弘 専門調査研究員 氏家 信行 (調査主任) 調査員 渡部 裕司
調査指導	山形県教育庁文化財保護推進課
調査協力	庄内町教育員会 山形県教育庁庄内教育事務所



はじめに

南口 A 遺跡は、庄内平野の中央に位置し、庄内町の南口集落の南側約 150m の水田に立地しています。遺跡の約 1 km 東側には昭和 49・50 年に調査が行われ、溝状遺構や版築積層が確認され、坏、甕などの土器片が出土した梵天塚遺跡があります。梵天塚遺跡は上人塚あるいは、正直山と呼ばれる平安時代の墳墓・基壇・土塔などと考えられています。その規模は東西 28.2m、南北 19.6m、高さ 2.8m と推定されています。

今回の南口 A 遺跡の調査は、新庄酒田道路の一部を構成する高規格道路「余目酒田道路」の建設工事に伴って緊急発掘調査を実施しまし

た。

遺跡は、現在の県道 43 号余目加茂線の建設に伴い昭和 61 年に試掘調査が行われ、遺跡として登録されました。翌 62 年には工事の際に立会調査も実施されていますが遺構・遺物は見つかりませんでした。その後、余目酒田道路の建設計画により、平成 17 年に踏査による現地確認を行い、平成 20 年には重機械を使ったトレンチによる試掘調査が行われています。その結果、溝状遺構や水路跡が確認され、奈良・平安時代の須恵器や土師器と近世の陶器片が出土し、遺跡であることが再確認されました。

発掘調査は 5 月 13 日から開始し、はじめ

めに重機械を使用して表土を掘削した後、遺構を検出するため手作業で土を削りました。その後、見つかった遺構を丁寧に移植ベラで掘り下げていき、出土した土器とともに写真撮影を行い、断面図や平面図などの記録をしながら進めています。

発見した遺構と遺物

今回の調査では、調査区の南側を中心に、水路跡、土坑、竪穴遺構などの遺構が見つかりました。これらの遺構は、主に今から 1200 年前の平安時代と近現代 (江戸時代末～昭和頃) のものであることがわかりました。竪穴状の遺構は、遺物が出土していないため正確な時期は特定できませんが、規模や形状から古墳時代～平安時代の竪穴住居と考えられます。

出土した遺物として、平安時代の須恵器、土師器、近現代の陶器、磁器、木製品、銅銭が挙げられます。須恵器は、我が国で初めて本格的な窯を用いて焼成された焼き物

です。また、土坑の底から出土した木製品は、掘立柱の沈み込み防止のために据えられた部材の可能性があります。

まとめ

今回の調査によって、溝、水路、土坑、竪穴状遺構が検出され、須恵器、土師器、近現代の陶磁器、木製品などが出土したことから、約 1,200 年前の平安時代から近現代まで人々がこの地域で生活していたことが確認されました。さらに、多く見つかった溝や水路から、水を利用していた集落であったことが窺えます。

但し、明確な古代の竪穴住居が検出されなかったことから、集落の中心は今回の調査区の南東側にあるとも考えられます。

この後、調査で得られた資料を埋蔵文化財センターで、詳細に検討していきます。



調査区全景 (南から)



作業風景

南口 A 遺跡で 発見された遺構・遺物



須恵器出土状況

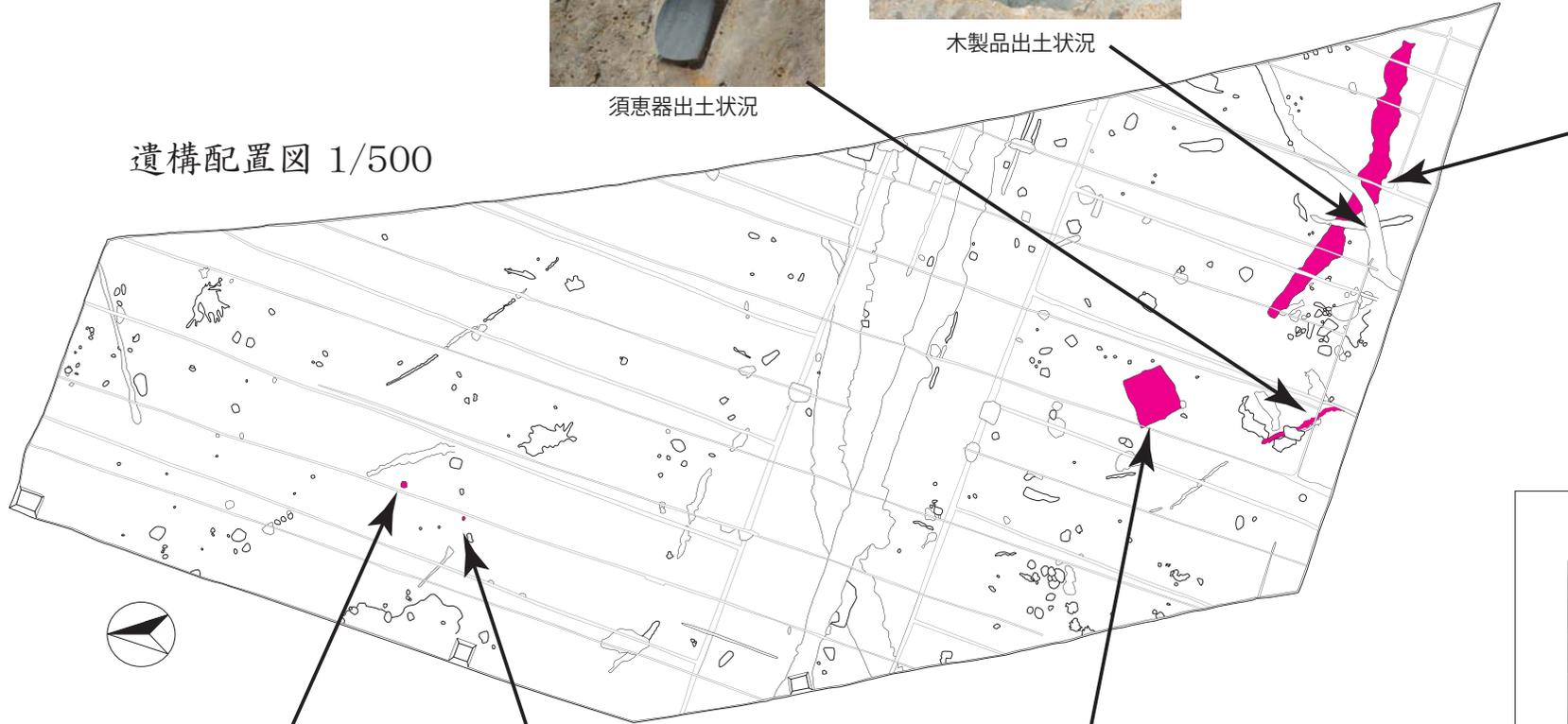


木製品出土状況

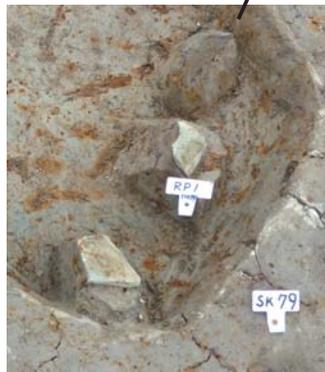


須恵器出土状況

遺構配置図 1/500



遺構から出土した遺物



須恵器出土状況



木製品出土状況



竪穴状遺構検出状況

遺構外から出土した遺物



須恵器



磁器